農工大の樹　その38

〈解　説〉

クロガネモチ

（モチノキ科，モチノキ属の種，学名：*Ilex rotunda* Thunb.，中国名：鉄冬青）

樹高15m，胸高直径50cmにもなる高木性の常緑樹で，雄と雌の別（雌雄異株）があります。この種は美しい実をつけることから，庭によく植えられるのでなじみ深い木でもあります。この種の分布域は広く，本州の茨城県，福井県以西から，四国，九州，朝鮮半島，琉球，台湾，中国，インドシナ半島にまで生育しています。この種名（和名）はモチノキの仲間で，名前は葉の表面が黒光りしてクロガネ（黒金）を連想させることから付けられたそうです。全体にモチノキに似ていますが，この種は葉が大きく黒光りをしていること，赤い果実が5～8mmの大きさで柄の先に5～6個つく（モチノキは長い柄の先に1～1.5cmの果実が一個つく）ことで容易に区別できます。両種ともヒヨドリやツグミなどの鳥の好物ですが，どちらかというとモチノキの方が好まれているようで，まず先になくなります。野生での生育本数が少ないこともあり用材としての用途はありませんが，緻密な淡い黄色の材を持つことから彫刻材（印材）や櫛材に利用されます。また，樹皮は染料になります。モチノキと同様に，この種でも皮を剥ぎ，それを叩いて繊維分を取り除くと「トリモチ」を採ることができます。

この写真は本部の武蔵野荘入り口に植えられているものです。

（農学部教授　　福　嶋　　司）